

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191400011		
法人名	社会福祉法人 天寿会		
事業所名	グループホーム つばき		
所在地	佐賀県東松浦郡玄海町平尾380-8		
自己評価作成日	平成26年6月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成26年6月27日	外部評価確定日	平成26年8月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、月に1回のグループホーム会議では、各入居者のリスクを話合うことで情報の共有とリスク回避に繋がり、開所より転倒による骨折事故は起こっていません。</p> <p>2、職員のレベルアップを図る為に併設されている施設での研修会に月に1度参加しています。又、グループホームの取り組みについての実績を法人内で行われる研究発表や外部での研修会にて発表しています。</p> <p>3、家族会を季節毎に運営推進会議を2ヶ月毎に行い、ご家族や地域との交流を深め開かれた施設を目指しています。</p> <p>4、各お部屋には、なじみの家具や布団を持ってきて頂く事で家と継続した生活ができる工夫をおこなっています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>玄海町の北部、静かで自然豊かな小高い丘に特別養護老人ホームと併設して建つグループホームは、近くに民家は無いが併設事業所と共に行なう行事やボランティアの慰問などを通し、地元住民と触れ合う機会が多い。また防災対策や夜勤のフォロー体制など安全に対する法人内での協力体制が整っており、本人や家族・職員の安心に繋がっている。事業所の内部はゆとりのある設計で、2ヶ所のストックルームは種類によって使い分けられ洗濯室も独立している。収納箇所も多く共用部分もすっきりと片付けられている。和室も備えたりびんぐは広々としていて、大きな窓からは開放すれば風の通りもよく明るい。浴室は、ユニバーサルデザインの介護浴槽となっており、浴槽とリフトの一体化や、つかみ易いように考えられた浴槽の縁と、移動可能な手すりが入浴介助もゆとりある介助ができ入居者も安心して入浴できる。入居していても家族の関わりを大切にし、貴重な意見やアドバイスを受け日々のケアに活かしている施設である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内の基本理念を基にグループで目標を定めています。また、この理念や目標は各職員が職員ノートに記載し実践に繋がっています。	ホーム開設時に職員全員で考え作成された理念は、法人の基本理念を基に作成されている。またそれに伴い職員も目標を定め、記載されたファイルをタイムカードの横に置き、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや運動会を併設の事業所と合同で行い、地域の方にも声掛けをして参加をして頂いている。又、地域の慰問の受け入れも行い、顔見知りの方との関係継続に繋がっている。	自治会には加入しているが、一斉掃除などは免除されている。地域との交流は併設の事業所を通してすべて行われ、合同夏祭りには多くの地域住民の参加があり、顔馴染みの関係もできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度は、認知症についての講演会を法人で実施し、ご家族にも参加して頂いた。今年度は、認知症サポーター制度(キャラバンメイト)の資格を職員が取得した為、地域に向けて認知症についての講義を行う予定にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中では、待機者の人数や入居の状況の報告を行っている。又、入居者の安全・安心・不利益とならない為に例えば、肺炎球菌ワクチンの予防接種についての効果を会の中で伝えたり補助金の制度についてご家族へ説明を行っている。	運営推進会議は2ヶ月に一度、民生委員や行政職員、入居者家族代表・町議員などの参加で開催されている。会議では入居者の状況や活動内容の報告、双方向の情報交換等活発な意見交換がなされ、議事録も整備されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂くなど定期的に連絡を取る手段を確保している。又、運営推進会議を年に1回はご家族との食事会もかねておこない、ご家族の意見も聞けるような場を設けている。	併設施設が行政との窓口になっており、運営推進会議の参加を通して町の担当者と直接情報交換ができている。併設事業所を通じた町の介護教室などで行政との関係作りもできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はボタンをおさないと開かない仕組みになっているが、ベランダから庭へは自由へ出入りできるようになっている。又、定期的な外出の機会や個人で要望がある場合には対応することで閉鎖的な環境にならないよう心がけている。	併設施設と共に身体拘束検討委員会があり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は、身体拘束に関する研修に参加し、精神的、言葉による苦痛の無い支援を心がけている。入居者の行動を制限せず、職員は見守り、付き添いを行いながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回は、併設施設と身体拘束についての勉強する機会をもうけている。又、グレーゾーンのケアという事で「不適切に繋がらないケア」の話し合いを行う等、職員に虐待防止の意識付けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム会議の中で成年後見制度について勉強する機会を持っている。又、玄関に成年後見制度についてのパンフレットを設置することで活用に繋がるはたらきかけをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には、時間を設け十分な説明を行い、ご家族の不安や疑問を聞き理解を得られている。その後も、疑問があれば電話して頂くように声掛けして不安の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で外部に報告を行っている。職員には、グループホームの会議や伝達ノートにて改善を行い統一したケアに努めている。上司に対しては、会議録の閲覧とホーム長が管理者に必要な応じ報告を行い情報を共有している。	契約時に重要事項説明書に苦情申立先を明記し、玄関には意見箱を設置していることも説明している。日頃から家族と信頼関係の構築に努め、意見や要望の把握に努めている。管理者は、出された意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議の中や年に2回行われる、直属上司との面談の中で職員より意見を聞く機会を設け運営に反映させている。	毎月の会議では、業務やケアに関する意見を全職員が発言する機会がある。事業所内で解決できない意見や要望等については、法人内の管理者会議で提案し、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間の目標を各職員決めてもらい、年に2回に評価をすることで本人の努力や実績を把握する機械を設けている。又、それが次年度の給与水準にも繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の目標を各職員決めてもらい目標を達成するための働きかけや外部研修に年に1回程度は参加する機会を設け技術や知識の習得に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、併設の特養と研修を行う事で交流を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時点で、困りごとの聞き取りをする。継続した生活ができるように家具や寝具・写真などを持ち込んで頂き配置をなるべく変えないことで住環境を整えることと、施設生活になれるまでは、ご家族の面会・宿泊をすすめ不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とお話する機会を設けている。その中でサポートが必要な事を把握し関係づくりに努めている。又、生活暦情報シートやケアプランに記入し情報の共有をおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際には、ケアカンファレンスを行いケアプランの中にそのときまず必要としていることに優先順位をつけてサービスの提供をおこなっている。施設外のサービスとしては、出張理容を利用している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のできる能力は活かし、生活の中で活用している。洗濯物たたみや食器洗いカーテン明け・カレンダーをめくるなど。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望がある方に職員からの声掛けだけでなく面会や外出を依頼している。又、面会の際にはお茶などを出しゆっくりと過ごせる場所の提供を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の行事などにて、地域の方を招いたり隣接した施設内で顔見知りの方とは食事をする機会などを設けている。	友人の訪問時には、茶菓子の接待をするなど、職員は入居者の人間関係を大切にしたい支援を心がけている。また、馴染みの美容室など入居者からの希望があれば家族の協力も得ながら対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し食事のテーブルを決めている。又、途中で関係が変わるようであればその都度話し合いを行っている。一方くつろぐスペースでは、席を決めず入居者同士の人間関係の構築に繋げ孤立することのない支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院された為に退居されたが、その後も病院への連絡を行い、ご家族の希望があったためにサービスの紹介をおこなうなど相談にのりフォローを行った。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の思いや要望については、ケアプランに取り入れている。又、生活の中で要望がある際にはできる限り答えることができるようにご家族と協力し答えるようにしている。自分で訴えることのできない方に対しては、ご家族と相談し本人本位になるようにしている。	職員は、入居者と会話する事を心がけており、普段の様子や言葉・表情・笑顔などから入居者の思いや意向を汲み取るように努めている。希望や意向を表すことが困難な入居者には、家族から情報を得るように努めている。知り得た情報は、職員間で共有してケアに活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集の段階で生活歴の情報を把握し、フェースシートや生活歴情報シートで把握し情報を共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画の日課表に一日の過ごし方を記入している。心身の状態や有する能力については、アセスメントに記入し定期的に見直しを行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作る際には、ご家族に要望を聞き課題を見出している。又、ご家族の協力も得ながら介護計画を作成している。	本人家族の意向等を汲み取った介護計画を作成している。モニタリングが確実に行われ、状態に変化が生じた場合には、速やかに見直し、現状に即した介護計画を作成し支援に反映されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やうまくいったこと、ケアプランのサービス内容の実施記録についてケース記録に残し毎日勤帯・夜勤帯それぞれ出すことで情報の共有を行っている。又、介護計画の見直しの際にはその記録を基に見直しをおこなっている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族の要望やニーズに対しては、なるべく答えることができるように柔軟に検討している。受診は、ご家族付き添いとなっているが緊急時や精神科受診の際には、付き添いを行う等している。			

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の際には、同町の公共施設を利用している。又、食材は地元から購入したり ご自宅で食べられていた方が多いパンを週に1回提供し楽しみを持ち生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は、入居の際に説明を行いご家族・本人様に選んで頂いている。提携医以外でご家族が受診をされる方には、受診ノートを使用し情報の共有に努めている。	入居時に提携医の訪問診療があることを説明している。家族や本人の希望でかかりつけ医の受診は続行できるが、通院は家族の送迎をお願いしている。緊急時の場合は、かかりつけ医の承諾を得て提携医の受診を職員で対応するが、家族にも同行を依頼している。施設内の訪問診療を含め受診結果は全て家族に適切に説明し、報告がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて、往診の看護師や併設の施設の看護師に相談を行っている。看護師が受診を必要と指示があればご家族に報告し受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された際には、定期的にお見舞いに行き治療の状況や退院の日時について情報を得ている。又、入院の際には情報提供を行う事と相談にのることを伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合においても、ご家族や本人様の意向に沿う事を伝えている。又、その場合においては本人様やご家族と話し合い必要に応じ地域や医療機関の照会をおこなっている。	重度化した場合における対応に関する指針を作成し、契約時に説明している。これまでにターミナルケアに関する実績はないが、重度化や終末期の支援を要する場合には、説明と意思確認を行い、関係者が連携して、本人・家族の意思に添って支援する体制はできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回併設の施設と緊急時対応の研修をおこない、実践力を身につけているが実践について件数が少なく経験が少ない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、それを基に日中・夜間想定でそれぞれ避難訓練を行っている。又、避難訓練の際には、地域の消防団の方にも参加して頂くことで施設のつくりや入居者の状況を把握して頂くようにしている。	併設事業所と共に防災委員会があり、防災管理マニュアルに沿った防災体制ができている。併設事業所と合同で年2回夜間訓練を交え消防避難訓練を実施、また年1回はホームが火災元と想定した避難訓練も行われている。訓練には、地元消防団も参加し、協力体制ができている。併設事業所に生活用品も含め非常用備蓄もすべて整っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や生活暦を基に本人様にどのようなおえ掛けをしたら良いかを心がけてケアを行うようにしている。又、言葉の虐待をしないようにタイムカードの所に「～したらダメ」は言わない。と貼り常に意識できるようにしている。	入居者を人生の先輩として敬い、言葉遣いや態度に気をつけ、誇りやプライバシーを損ねることの無い様配慮している。個人が特定できる写真や氏名の取り扱いは特に注意し、外部に出す場合は、その都度家族等に確認をとるなど慎重に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で個々の重いや希望を聞くように、指導をおこなっている。又、その思いはケース記録などに残し共有できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の仕事をなるべく時間帯で決めないようにして職員のストレスケアに努め、入居者様の要望やペースも大切にできるようにしている。日曜日は入浴を行わず、入居者の希望に沿った支援ができる体制を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の要望によりカラーリングを職員が行う等、いつまでもその人らしいおしゃれにく暮らせるように柔軟に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立を作る際に、入居者様が食べたいといわれたものを取り入れるようにしている。又、食事の片付けや皿洗いもして頂いている。	入居者の要望を取り入れ献立を作成し、調理している。入居者と一緒に育てた菜園の野菜を収穫したものが、食卓に並ぶこともある。2ヶ月に一度隣接事業所と合同のバイキングでの食事があり、職員は入居者と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。誕生会など一緒にケーキ作りを行い、片付けなども一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食欲や嚥下能力に応じた量や形での提供を行っている。水分も嗜好に応じた飲み物を提供するようしており、必要に応じてご家族に購入の依頼もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所にて口腔ケアを行っている。拒否がある際には、時間をおいたり、職員が入れ歯のみあらうなど柔軟な対応を行っている。又、歯科医とも協力し、個別の支援に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パット内で排尿がある方に対してもトイレに座って頂く習慣を付けることで残存機能の維持・回復に努めている。又、排泄表を個別に作り排泄のパターンの把握と便の形状をシールでわかりやすく把握できるように工夫している。	入居者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。個別排泄チェック表を活用してトイレで排泄できるように支援しながらパットやリハビリパンツなど、本人の必要に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように一日800ml以上は水分を取れるようにしている。水分をあまり取れない方に対しては、本人の好まれる飲み物にしたりゼリーやプリンなどで提供している。毎朝、ヨーグルトを提供し便秘の改善にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の際には、声掛けを行い本人の意思を確認している。入りたくないなどいわれた際には、時間や日にちをずらすなど柔軟な対応を行い個々の支援に努めている。	入浴は、本人の希望があればできる限り支援するように心がけている。長時間ゆっくり入浴される入居者も多い。入浴を嫌がられる入居者には無理強いせず、入浴時間や声掛け等を工夫し、また、スタッフも一緒に入浴することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お布団や毛布類はなるべく持ち込んで頂き安眠に繋げている。又、夜間睡眠が取れなかった方にはお昼寝をして頂く等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のファイルに飲まれているお薬の情報を挟むようにして、効能や副作用・用法・用量がわかるようにしている。服薬の支援については、こちらで管理をして飲み忘れがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で「～したい」といわれた事はなるべく実現できるようにしている。(買い物・散髪・カラーリング・血洗い)嗜好品については、ご家族に相談し持って来て頂くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日曜日は入浴を行わず、入居者様の要望に沿って戸外に出かけられる機会を設けている。又、生まれ故郷行きたいといわれた際には、ご家族に相談し外出を促している。	広大な敷地内で、入居者は職員の見守りで隣接事業所まで散歩したりしている。併設施設の行事参加や買物、花見、ドライブなどの外出支援も行われている。日曜日は、買い物など入居者一人ひとりの要望に沿って、戸外への外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、トラブルにならないように金銭面はご家族に任せていますが、ご自分で管理ができれば方には、散髪代やお買い物等の際に使うことができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をしたい」と訴えられた際には、事務所より職員が番号を押すところまで行い援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、椅子を置き帰宅欲求がある方に座って頂き視線を落とすことで海や山などを眺めることができる環境にしている。床も木材を使い温もりがあり足音もあまりしない。電気も3種類の明るさを設け個人の生活や時間帯に応じて使い分けている。リビング方台所が見えるなど家庭的な環境づくりもできている。	和室を備えたリビングは、落ち着いた木の温もりと大きなガラス窓の設置から明るく風の通りも良い。窓の外にはベランダあり、そこからは、入居者と職員で育てている菜園が一望できる。オープンキッチンからは調理の音や香りが利用者に伝わり、五感刺激に繋がっている。浴室は、床暖房設備や気温を調節し、気持ちよく入浴してもらえるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、和室にはこたつ等数箇所設置することで、小さな集団での語らいやご家族の面会ができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なるべく本人様をご自宅でご使われていた家具や寝具・写真などを持ち込んで頂くように入居の際に声掛けをおこなっている。	それぞれ施錠ができる居室は、トイレ・洗面台付きで広く、馴染みの品の持ち込みの制限はない。居室には自宅で使い慣れた布団、テレビやタンスなど入居者それぞれその人らしい居室作りがなされている。室内も清潔に保たれ、入居者は、住み慣れた自宅と同じ観点から、落ちついた生活ができている。	施錠することで安心する長年の生活リズムは、ホームでも同じ生活リズムが出来、またプライバシーが保たれ、安心した生活が出来ていると思われる。夜間は、それぞれの鍵で開錠し巡視している。できればマスターキー若しくは、全室自動開閉装置があれば、非常、緊急時の対応もスムーズに開閉ができ、職員も安心した介護ができることに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今ある能力を活かすことができるように、生活の中での役割分担をおこなっている。又、転倒される可能性があるかたには、お部屋の床に衝撃を吸収するマットを敷くなどし怪我を予防し安全に過ごす事ができるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない